

【2022年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
卒業研究		選択	4	4	通年
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
鈴木 真吾 他	B309	shsuzuki	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p><目的>3年間の学修過程で関心を持った社会福祉学・心理学のテーマについて、文献研究、実験研究、調査研究等を行うことにより、社会福祉学・心理学の研究方法及び論文の執筆方法を修得する。論文作成を通して、社会的問題について科学的思考に基づき対応できる社会人としての基礎力を身につける。</p> <p><概要>関心を持ったテーマに関する文献レビュー、調査、分析、結果の整理と考察を行えるよう担当教員が指導する。その際、仮説・推論の構築を前提として、調査結果を根拠とした科学的思考に基づく考察を行い、卒業論文を完成させることができるよう、通年で対面・オンラインを駆使して論文指導を行う。中間発表会・最終発表会への参加を必須とする。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	単なる読書の感想ではなく、文献の精読や調査・実験を道具とした科学的思考を常とすること。自ら積極的に担当教員の指導を仰ぐため、意欲的に担当教員に連絡を取ること。				
教科書	教科書は指定しない。				
参考書	選んだ論文テーマ及び研究手法に沿い、担当教員が適宜紹介する。				
外部教材	選んだ論文テーマ及び研究手法に沿い、担当教員が適宜紹介する。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	社会の様々な課題から研究テーマを考え選ぶことができる。			HSU (5)	
②	論文作成のために必要な文献精読や調査手法を理解する。			WP (3) (5)	
③	論文作成のために必要な執筆マナーや科学的な日本語表現を学ぶ。			WP (3) (5)	
④	論文作成の過程や成果を的確にプレゼンテーションできる。			WP (3) (5)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
前期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション (日程の説明等) の実施 ・指導教員の決定と研究テーマの検討をおこなう。 ・個別指導を中心に、研究計画を立案する。 ・個別指導を中心に、文献レビューを行う。 ・個別指導を中心に、調査計画を策定する。 ・卒業研究中間報告会に参加する。 7月下旬 (予定) 	個別指導	担当教員から十分な指導を受けながら、左記の学習内容等を着実にこなすことができるよう、時機に見合った課題に取り組む。		40
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を中心に、データを収集する。 ・個別指導を中心に、データを分析する。 ・個別指導を中心に、論文を執筆する。 ・論文を提出する 【論文提出締切：12月中旬 (予定)】 ・卒業研究最終発表会に参加する。 12月下旬 (予定) ・主査及び副査の論文審査を受けて、論文を修正する。 	個別指導	担当教員から十分な指導を受けながら、左記の学習内容等を着実にこなすことができるよう、時機に見合った課題に取り組む。		80

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	80	20	0	0	
総合力指標	知識・技術力	0	20	0	0	0	20
	思考・推論・創造する力	0	20	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	10	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	20	0	0	0	20
	問題を発見・解決する力	0	20	0	0	0	20
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	提出された論文について、研究テーマを設定する適切さ、調査手法の選択、結果を分析して考察する科学的思考の能力等を、指導教員（主査）ともう1名の教員（副査）で審査を行い、総合的に成績評価を行う。				副査の審査結果及び修正意見に基づき、主査の指導のもとで論文修正を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	卒業研究中間報告会、最終発表会でのプレゼンテーションの内容等を評価する。				発表会後に主査からプレゼンテーションの講評及び指導を受ける。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	4年次ゼミ（福祉心理学専門演習Ⅲ・Ⅳ）を担当する教員が原則主査となる。 2022年度は次のとおりである。他担当教員：瀧口 綾、高田 毅、梅沢 佳裕、渡邊 隆文						
教員の実務経験	社会福祉士・臨床心理士・公認心理師等の専門資格を有して現場実践を重ねている教員で構成されている。						
実践的授業の内容	社会福祉士・臨床心理士・公認心理師等の専門資格に基づく現場実践での問題発見及び問題解決能力を活かしつつ、これまでの研究成果に至る研究活動の経験を存分に踏まえて、論文作成の指導を行う。						
そ の 他	受講希望者は、4年次開始から早々に「研究テーマ」および「指導を依頼する教員」を確定させること。「テーマが決まってから相談に行く」と考える必要はないので、指導を依頼したいと思っている教員に可能な限り早く相談に行き、相談しながら研究テーマを探すこと。研究指導の日程については各担当教員と相談の上決定すること。また、卒論指導を受けるために登校する際は、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には履修を認めないことがある。その場合、本科目の履修を放棄したものと見なす。なお、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。						